

## 令和元年度 相模台地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和元年11月12日(火)午後7時から午後8時30分まで
- 2 場 所 相模台公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、下仲副市長、長谷川南区長、菅谷こども・若者未来局長、  
石井企画財政局理事、阿部南区副区長  
樋口市民局長、高梨市民局次長
- 4 出席委員等 25人
- 5 傍聴者 8人
- 6 懇談会の要旨

テ - マ	子どもたちの育ちを地域で支える取組について
概要	<p>近年、児童虐待やいじめ、不登校、ひきこもりなど、子どもを取り巻く環境や課題が複雑化・多様化している。</p> <p>こうした状況の中、子どもたちの育ちを地域で見守り支える取組として、学習支援や子ども食堂などの子どもの居場所づくりが広がりを見せている。</p> <p>そこで、本市におけるこうした取組に対する現状認識と、活動を広げるための普及啓発、団体間の連携や補助金などの支援策等について伺うとともに、他地区や他市における先進事例や成功事例などがあれば併せて伺いたい。</p> <p>また、子どもたちの育ちを地域で支えるに当たっては、子どもの居場所づくりだけでなく、地域全体が現在の子どものたちを取り巻く環境を理解し、その輪を広げていくことが大切と考えるが、市と地域が連携して行うことができる啓発の取組についても懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>地区連合自治会や地区社会福祉協議会が中心となり、今年度までに4小学校区内に3箇所の学習支援をメインとした子どもの居場所を開設している。また、子ども食堂なども開設されている。</p> <p>青少年健全育成協議会や自治会等の主催により、子どもに関連した講演会や映画上映会などを開催し、地域全体で子どもを取り巻く環境について理解を深めるようにしている。最近の実績としては、校長先生による学校の様子の講演会や児童相談所職員による児童虐待についての講演会、里親制度をテーマとした講演会、映画「みんなの学校」の上映会を行っている。</p> <p>学習支援センター開設の経緯について、相模台地区連では「地区の安全で安心なまちづくり」という基本理念で昨年(平成30年)3月の役員会にて地区内の4小学校区ごとに学習支援センターを設置するための検討を行い、5月に学習支援計画委員会を設立した。</p> <p>若草小学校区については、昨年(平成30年)の2学期から毎週月曜4時から6時にがんばろう製作所(デイサービス事業所)を借りて実施している。</p> <p>双葉小学校区については、今年(令和元年)の2学期から毎週水曜4時半から6時に御園南自治会館にて実施している。</p> <p>相模台小学校区については、相模台地区社協の取組で、サポートセンター「楽しく」にて「楽しくキッズ」という学習支援をスタートさせ、「子どもの居場所づくり」を実施している。</p>

	<p>学習内容は算数・国語の2科目で学校長と相談し、決定している。</p> <p>対象学年は4年生から6年生で時間を2コマに分けており、1コマ目は各自で勉強したいもの(宿題や復習したい教材)を持ってきてもらい、2コマ目は1コマ目で勉強したいものが終わった子には用意したプリントを解いてもらっている。</p> <p>参加者の募集については、各小学校長と相談し、実施要領を作成して先生を通じて募集し、参加希望の児童とその保護者との面談を行って決定している。</p> <p>参加者数については、若草小は4年生2名、5年生5名、6年生1名の計8名で講師は常勤2名、非常勤1名、スタッフは4名で運営している。</p> <p>双葉小は4年生から6年生の合計14名で、講師2名、スタッフ6名で運営しており、講師は元教師、元塾講師、学生ボランティアで相模女子大学、麻溝台高校から来てもらっている。</p> <p>学生ボランティアのおかげで、子どもと近い目線で物事を考えることができ、学習意欲が向上した。休憩時間にパンと飲み物を提供しており、子どもたちもそれを楽しみにしている。</p> <p>運営資金については、初年度は市社協子ども健やか育成事業助成金を活用しており、2年目に当たる若草小については、公益財団法人キリン福祉財団「キリン地域のちから応援事業助成金」を活用している。</p> <p>今後の取組としては、唯一桜台小学校区に学習支援センターがないので、立ち上げていきたい。</p> <p>課題としては、運営費用の面で現在活用している助成金が単年度のため、継続して運営ができるかどうかと、講師が不足している状況である。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>近年、子どもの取り巻く環境が多様化、複雑化する中、地域での子どもの居場所づくりが重要になっている。</p> <p>こうした中、子ども食堂や無料学習支援など地域住民が主体となった子どもの居場所づくりの取組が広がっており、大変重要な取組であると認識している。</p> <p>本市においても、10月時点では、子ども食堂が30か所、無料学習支援については21か所で実施しており、今後さらにこうした取組が広がるよう、子どもの居場所づくりに必要な情報提供や、教科書などの物品の貸与、活動の周知、運営に関する相談窓口を市社会福祉協議会に設置するなど団体が活動しやすい環境づくりを行っているところである。</p> <p>また、団体と行政、さらには活動を支援する企業などとの連携も重要であると考え、情報交換会を年5回開催し、食材の調達やボランティアの集め方など運営に関する情報交換を通じ、団体間の連携を促すとともに、フードバンクや企業などからの協力の申し出についても紹介しマッチングを図るなど、団体が活動しやすい環境づくりに努めている。</p> <p>活動に必要な財源については、市社会福祉協議会の子ども健やか育成事業補助金や、個人、企業からの寄付などを活用している事例が多いことから、情報交換会においてこうした事例を紹介し、団体の活動趣旨に合った財源が確保できるよう支援している。</p> <p>他地区では、小学校PTA関係者や公民館、地区健全育成協議会、地区社協、地域包括支援センターなど地域が一体となって食堂、学習支援を行っている事例</p>

	<p>も多くなっている。</p> <p>また、啓発の取組としては、各地域で青少年関係団体が地域ぐるみで青少年健全育成活動を効果的に行えるよう広報紙の発行、講演会の開催、パトロールなどの活動に対し補助するなど活動支援を行い、家庭、学校、地域の連携強化を図っている。</p> <p>今後とも、地域の団体と連携を図りながら、青少年健全育成の啓発に努めていきたいと考えている。（こども・若者未来局）</p>
--	---

懇談内容	
地区の発言	<p>子どもたちの間で問題が起こらないような環境づくりのために学習支援センターを設立していることは、大変いい取組だと感じている。しかしながら、子どもたちの間で、問題が起こってしまった場合に、組織として問題解決に係る具体策についての事例やアイデア等の情報が得られるような場はないか。実際にいじめのような問題を抱えており、保護者から相談を受け、学校やカウンセラーにも相談し対応しているが収まっていない状況である。またPTAでも学校と協議し、オープンスクールの取組を行い、大人の目がたくさん入るように呼びかけをしたが、なかなかうまくいかないで、次の方法を考える上で情報がほしい。</p>
市の発言	<p>青少年相談センターを含め、教育委員会が事例やアイデア等の情報を持っていると思われるので、相談してほしい。</p> <p>学校全体での取組として、大沢地区にある大沢中学校では、スマートフォンの使用時間が長くなり睡眠不足や昼夜逆転してしまい、子どもの生活習慣の乱れが学力低下など学校生活に影響を及ぼしているため、生徒会主導でスマートフォンの利用を制限する取組がうまくいっている。（こども・若者未来局）</p>
地区の発言	<p>学習支援について、先ほど説明したとおり、講師については現在人づてに探している状況で、例えば市の退職された先生を紹介してもらえるような仕組ができるといいので、ぜひ要望したい。</p> <p>学力格差は経済格差によって広がっている状況で、格差が生まれないように学習支援等を通じた子どもの居場所づくりを行っている。</p> <p>地域で活動を行っていくものだが、ある一定のところまで市の支援も必要となってくる。</p>
市の発言	<p>退職された先生を紹介することは可能かと思うので、早速教育長に話をしてみる。桜台小学校区にもぜひ学習支援センターを立ち上げてほしいが、来年度には立ち上げられそうか。（市長）</p>
地区の発言	<p>桜台小学校区にはURの相模台団地があるが、高齢化が進行している。そのため、若い世帯に住んでもらうために、11月30日に子どもを対象としたお祭り開催する予定で、このお祭りをきっかけに、若い人に住んでもらい、そこから桜台小学校区にも学習支援センターを設立できるよう、機運を高めていければと考えている。</p>

<p>地区の発言</p>	<p>相模台小学校区で行っている「楽しくキッズ」について、活動の方向性を13か月かけて議論してきた。子どもの居場所として誰でも来ていい場所にして、最終的には「自尊意識を持って自発的に学習したい」という意識をもってもらえるような支援をしている。誰でも来ていい場所なので、自閉症スペクトラムという障害を持ったお子さんも参加している。そのお子さんが「楽しくキッズ」に参加し、できることが増えたことで、子どもの可能性をそのお母さんが発見することができたため、それが心の安定や喜びにつながっている。</p> <p>学習ボランティア募集について、自治会回覧を活用し、募集したところ、17名と大学生5名ボランティアが集まった。しかし、参加する子どもが少ない状況があり、原因としては活動時間に問題があると思われるため、現在検討している。</p> <p>また米軍住宅から来ている子どもがおり、日本文化を学ぶために将棋を教えてほしいと言われたので、サポートセンター「楽しく」に来ている80歳の方が将棋を教えている。その他にも参加者の母親を含めた交流会を行っている。</p>
<p>市の発言</p>	<p>ぜひ桜台小学校区にも学習支援の場ができるよう支援していきたい。現在行っている3小学校区でも、講師や参加者不足の課題があることは伺ったのでできることを支援していきたい。(市長)</p>
<p>市の発言</p>	<p>いじめのような問題が起き、PTAで取り組んだオープンスクールがうまくいかなかったとのことなので、改めて詳しく話を聞きたい。いじめは根絶しなければならぬので、後日別の場で話す機会を設け、対応していきたい。</p> <p>全国学力テストの結果で、本市は全国的に下位グループになっており、教育委員会からは、「所得格差」から生まれる「教育格差」が理由ではないかと言われている。そうあってはならないので、学習支援や子ども食堂などの子どもの居場所づくりを考えているし、市議会の皆様の質問にも、常に子どもの居場所づくりがキーワードとなっている。本日いただいたご意見について、時間を取って細かく聞きながら対応していきたい。(市長)</p>

その他	
地区の発言	麻溝台・新磯野地区第一区画整備事業の経過と今後の対応について、簡単でいいので伺いたい。
市の発言	<p>本日（11月12日）開催された市議会全員協議会にも市から説明したところで、都市建設局内に検証チームを配置し、大量の地中障害物が発出したことによる事業への影響について検証をしてきた。</p> <p>その中間報告として、課題点がいくつか浮かび上がってきており、地中障害物の処理手続や宅地の評価、換地設計、資金計画等についての課題である。</p> <p>本事業については、民間事業者包括委託方式で契約されていたが、業務を行う十分な体制が構築されておらず、事業の進め方についても適正な事務が行われていない事案があることを確認した。また、この事業を早期に再開することは困難な状況にあり、「資金計画をはじめ、事業計画の変更を検討したうえで慎重な判断が必要である」と示されている。</p> <p>この事業は、単に地中障害物が出てきたことだけに起因する問題ではなく、事務執行上も不適切な部分があったことがうかがえる。</p> <p>そのため、「コンプライアンス上の問題については別途対応していくことが必要だ。」と報告がされた。</p> <p>この事業を再開するため整理すべき事項や必要となる調整事項等、様々あるが、一定の方向性を示すよう検証作業を継続していく。</p> <p>今の段階では、これからこの事業をどう進めていくかというところまでには至っていない。</p> <p>本日行われた全員協議会では、麻溝台・新磯野第一整備土地区画整理事業の取組状況と検証の経過について報告がなされた。（南区長）</p>
地区の発言	今の説明を伺う限り、いつ再開するかわからないということを確認した。
地区の発言	11月14日以降の説明会があるが、そこで詳しく説明があるのか。
市の発言	<p>11月14日より6回にわたり検証に係る中間報告を担当課より行わせていただく予定で、場所は南区合同庁舎と女子美術大学で行う。</p> <p>私が市長になってから、この事業をしっかりと進めていくためにも一度立ち止まって、これまでの内容を含めてよく検証することとした。前市長の時代に、43街区の148ヘクタールを先行して掘削したところ、地中障害物が非常に多く発出され、全体の62%くらいに地中障害物を埋められた可能性があることと検証でわかった。また、平成30年度の3月議会において「26万立方メートルに地中障害物があるだろう」と答弁している。</p> <p>試算すると60億円から100億円の処理費用が掛かるだろうと聞いており、この事業を一度立ち止まって検証しなければならないということで、7月に検証チームを立ち上げた。4か月間検証した結果を本日（11月12日）の市議会全員協議会で報告させていただいたので、おそらく明日（11月13日）以降新聞報道等があると思われる。</p> <p>行政サイドですんなり処理があり、例えばAさんには大きく見積り、Bさんには小さく見積もるなど村度があったことが内部調査で判明した。2月に再度検証結果を報告するが、市議会より第三者委員会に諮るべきではないかと意見もいただいている。</p>

市の発言	<p>「早期に再開することは困難な状況」にあり、市民の皆様にご理解いただけていない中で、今後事業を進めていくうえで市税の投入をすべきかどうかが問われており、非常に複雑で難しい状況である。市施行で民間包括委託を行った区画整理事業は、全国で東日本大震災の被災地以外にない。国交省からは前例がなく、非常に驚いていると言われている。将来的には事業再開の見込を立てていかなければならないと思っている。本日の市議会全員協議会では、議員の皆様から厳しいご指摘やご意見をいただいております。市には、しっかり反省しなければならない点や、改めなければならない点がたくさんある。詳しい説明は、11月14日以降にある説明会にて行う。（市長）</p>
------	--

市長の感想等	<p>私もこの地域で育ち、ここにいる皆さまにもお世話になっている。そういう気持ちを常々心に秘めながら、しっかり活動していきたい。</p> <p>桜台小学校時代の6年間、障がいのある同級生と、登下校と席を隣にし、共に過ごしてきた。小学生であったため、途中で嫌になることもあったが、母親から、「世の中はお互いに、助け合って生きていくものだから、しっかり6年間通ってほしい」といわれ、続けてきた。その経験は今ではよかったと感じているし、困っている人や誰かに頼らなければいけない人に対して、自分が支えてあげられる人間にならないといけないと思えたのが、桜台小学校の6年間の思い出であり、政治家を志すきっかけである。これからはいろんな家庭環境があると思うが、いじめもなく不登校もなくみんなが笑顔で元気で登校できる学校環境を作っていきたいと思っている。</p> <p>市長就任後、初めて面会したのが不登校の中学生の男の子で、自宅に行き2時間向き合っ様々な話をした。いじめのない環境を作っていきたいと思っている。前市長の時代から、市政を語る会の学校訪問事業として年1回小学6年生を対象とし、質問を受ける機会を設けていた。来年度はぜひいろんな学校へ行き、子どもたちと会わせてほしいとリクエストしている。国会議員時代に社会科見学で市内の小学生が国会議事堂に来た時にいろんな話をし、子どもたちと接することで、自分も元気をもらっていた。各学校でイベントがある場合は、どんなに小さなものでもいいので、声をかけてもらえれば訪問したい。様々なところへ足を運んで皆様と対話しながら次の世代へつなぐよりよい相模台地区のまちづくりと一緒に頑張っていきたい。</p>
--------	--